

山形市市民活動支援講座

「経営マインドとプロジェクトマネジメント手法」WS講座

＝目標展開検討報告書＝

「山形市策定の「市民活動との共創指針(案)」にあるコンセプト『山形らしさ』に

つながる「市民活動のあり方」について検討&提案する」

2007年2月24日

(有)SKソリューションズ

黒沼貞志

1. はじめに

本検討報告書は、山形市市民活動支援講座及び交流会事業の中の「経営マインドとプロジェクトマネジメント手法」WS講座において、手法の体得の機会として位置付けられつつ、受講者が日頃活動を通じて抱えていたり感じている課題をテーマにして実施した協働ワークショップの成果である。

設定したテーマのビジョン・コンセプト作成、重点課題抽出とその実施のためのアクションプラン策定のために、以下に述べる目的(効果)の下で実施した目標展開について取り纏めています。

- (1) 事業の目標の確認及び明確化ができる
- (2) 目標達成のための手段の見落としをなくす(階層構造としての把握)
- (3) 団体、関係者と支援者のコンセンサスを得る
- (4) 重点課題の定量的抽出および共通認識が可能(『重みづけ手法』による)
- (5) 重点課題の担当化と実施計画書(アクションプラン)が作成される
- (6) 業務のプロセスが見え且つ残る【アカウントビリティ(説明責任、透明性)の確保】

2. 検討方法

本検討は以下のステップで関係者の協働作業で実施されています。

ステップ1: プレーンストーミングおよびラベル作成(複数回: 2時間弱)

<参加者(敬称略): 野口s、高橋s、吉田s、有川s、出牛s、小田s、黒沼(ナビゲーター)>

ステップ2: 目標展開作業&展開図作成(まとめ)

<黒沼が実施>

ステップ3: 目標展開図(模造紙・記入ラベル&PCデータ)の発表&重点課題の定量的抽出

<参加者(敬称略): 野口s、高橋s、吉田s、有川s、鈴木s、田宮s、木嶋s、出牛s、黒沼>

ステップ4: 重み付け点数表の整理&検討報告書取り纏め

<黒沼が実施>

3. 検討結果

(1) 目標展開

プレーンストーミングを開始するにあたり、最上位の目標(レベル0)を『山形市策定の「市民活動との共創指針(案)」にあるコンセプト「山形らしさ」につながる「市民活動のあり方」について検討&提案する』と設定し、参加者の自由な且つ広範囲にわたる意見を出してもらい、【目標展開手法】にて最上位の目標の実現のための手段を階層別に展開し添付3に示しました。

ここでは、階層構造で(レベル0からレベル6まで)記載しておりますが、概ねレベル1はレベル0の実現のための手段であり、且つレベル2に対する目標になっています。

順次、この考え方で階層構造として捉えています。

(2) 目標展開図の内容を基に関係者の作業により重み付けを実施した結果から見えてくる本テーマのコンセプト及び重点課題は次のようになります。

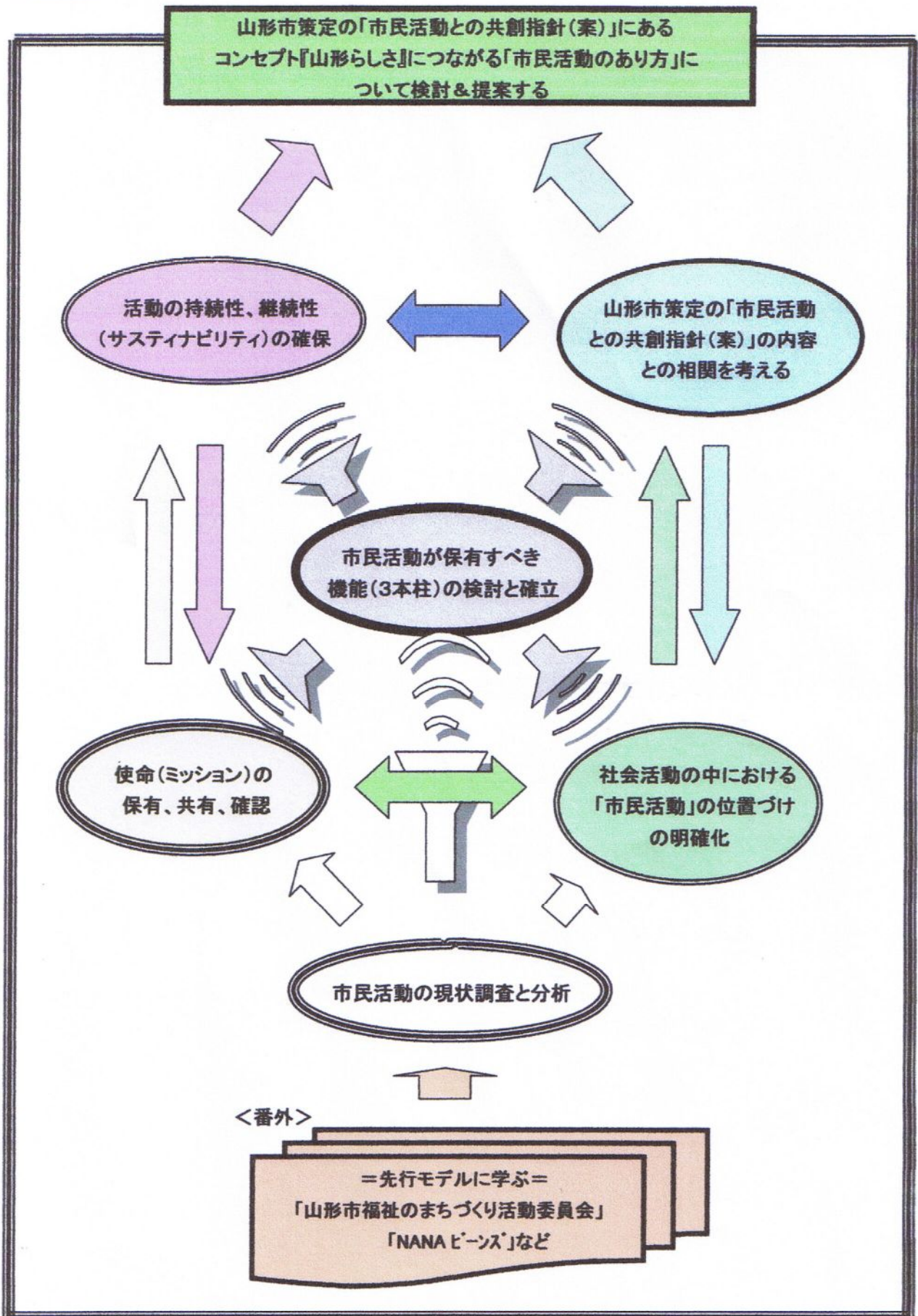
- (a) <異分野の団体の組み合わせが有効>とか、<市民活動レベルでの連携・協働のしくみ(ネットワーク)づくりが必要>という声を反映した「市民活動のネットワーク(中間支援、分野毎、etc)の構築」を実現して『活動を支える「人(運用する人&サービスを受ける人)」』という一つの柱と、<市民活動間及び行政と市民活動間の「橋渡し」機能が必須>であるというニーズに対応する「市民活動のあり方を検討して実行する上で体制についても検討が必要」に沿った『活動を支え

る「ソフト(しくみ)」づくりという二つ目の柱、そして、三つ目の柱(ハード)を含めて【市民活動が保有すべき機能(3本柱)の検討と確立】を目指す。

- (b)「市民活動が山形らしさを形成するうえで大きな力を持っている(現場主義)」という認識の下で『市民活動は何をすべきか?を考えたい』という声や『共通の大きな理念とその共有のためのネットワークのリーダーシップが不可欠』という考えに応えるべく【市民活動はその使命(ミッション)の保有、共有、確認が不可欠である】という基本の徹底を図る。
- (c)「一例:支援施策の継続性確保(人、もの、資金、情報)」などに見られる『行政サイドの課題(市の指針から主要部をピックアップ)』とか「一例:活動運営スキルの向上」に見られるような『市民活動サイドの課題(市の指針から主要部をピックアップ)』といった検討作業を通じて市民活動にとって【活動の持続性、継続性(サステナビリティ)の確保が重要課題である】という意識の醸成を図る。
- (d)「市民のニーズの現状分析ができていない」に挙げられるように『市民活動は誰のためのものかを確認する必要がある』といった基本的な問いや「信用力(ブランド力)のともなわない情報は活用されにくいので行政との連携や役割分担も必要」というニーズに応えるために『市民活動と行政の(共創)関係の明確化』作業を通して【社会活動の中における「市民活動」の位置づけの明確化】を実現する。
- (e)「山形での市民活動の情報を集約する必要性がある(マップ作りなど)」に代表されるような『市民活動マップ(領域と団体)づくりをして産学官民対応のマップへ展開する』といったニーズ、更には、「集約してある既存の情報が使いやすいか、役に立っているかを検証することも必要」に代表される『自分の知らない活動をしている団体がたくさんある』といった現状把握不足を改善するため【市民活動の現状調査と分析の実行】を推進する。
- (f)市民活動のあり方の検討には<共通イメージを描き出すことが必要では>、<「らしく」あるためのイメージづくり>、<「山形らしさ」のリソースの洗い出しのキーワードは地域単位の「温故知新」ではないか>などの具体例に挙げられるように「山形全域が豊かでいきいきとした生きかたができるためにどのように地域づくりをすべきか考えたい」というようなニーズに応えるため『「市民活動との共創指針」の中にある『山形らしさ』を考えてみる』というような作業を実施して【山形市策定の「市民活動との共創指針(案)」の内容との相関を考える】ことにトライする。

(番外)先行モデルに学ぶ ⇒ 「山形市福祉のまちづくり活動委員会」「NANAビーンズ」など

以上のコンセプトの関係を図示すると次のようになります。



4. 検討詳細

4.1 目標展開経過

講座受講者6名と黒沼でブレインストーミングを実施し、『山形市策定の「市民活動との共創指針(案)」にあるコンセプト『山形らしさ』につながる「市民活動のあり方」について検討&提案する』という最上位の目標および本目標の実現のための課題・手段・問題点などをラベル103枚として作成しております。

これを基に階層構造の目標展開図を作成して発表し、討議を経て(この時は受講者の入代わりがありました)了承されました。

4.2 目標展開図

目標展開図を添付3に示します。

時間の制約、討議の程度、参加者数などにより目標展開の深さは項目によってはレベル2までの展開からレベル6までと一定になっておりません。

展開程度の浅い項目については重み付けを勘案しつつ、今後の事業遂行過程で具体的な課題実現方法へ展開、反映させていく必要があります。

4.3 目標展開内容に対する重み付け

目標展開のレベル6までの項目について関係者8名(この時は受講者の入代わりがありました)で実施した重み付け作業の結果を添付4に示します。

重み付けにあたっては全てのラベルに注目し、また、各人の書いた(発言した)ラベルや各人の関わる活動にとらわれることのないように注意して戴きました。

その結果から関係者の重み付けに基づく絞込みの内容は添付4に示す様に基本的にレベル1の順位を尊重しながらレベル2以降の選定を実施しております。順次下位のレベルへ展開する際には上位が選ばれた項目の下位レベルについてのみ原則最高点のものを選定しています。

選定されたものについてはレベル4までをサマリーとして添付5に整理しました。

絞込み作業に際し、黒沼の裁量にて追加した項目もありますが、それは識別出来るように配慮致しました。

3項(2)にまとめられた本テーマのコンセプト及び重点課題は添付5に関係者の総意として整理されたサマリーから自動的に(恣意的操作なしで)作成されています。

以上の結果から上述コンセプト及び重点課題について、担当キーパーソン(KP)を決め、KPが次に添付するような計画書(添付1)と作業工程表(添付2)を作成し、着実に実行していくことにより設定した『山形市策定の「市民活動との共創指針(案)」にあるコンセプト『山形らしさ』につながる「市民活動のあり方」について検討&提案する』という目標の実現が可能になると思われれます。

以上